

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 「和らぎ」「歓び」

日付 平成18年3月31日  
特定非営利活動法人  
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年  
評価調査員 在宅介護経験11年  
評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、  
居宅支援事業所介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 外部評価の結果

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

昨年度の訪問調査から1年振りに、元気な殆どどの利用者の皆さんに再会した。勿論覚えてくれている人はいないが、女性陣は昼食の準備にそれぞれの得意な事に腕をふるって、愉快的会話や笑顔が漂っていた。男性も「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶の音頭役や各部屋の洗面タオルの交換に、誰もいない部屋でも入口で「失礼します」「タオル交換します」と大きな声で挨拶していた。他の人に対する礼儀正しさも、親しい人間同士でもきちっとしている様子が好感した。

昨年は、私達の一寸した声かけにも情動めいた行動をしていたピック病の人も、今年は挨拶に笑顔で対応してくれ、コックリと頭を下げ、気持ちを表現してくれた。随分ゆったりした気分で、安心した生活が送れるようになっており、日頃のケアの良さを感じた。

俳句や短歌を詠んだり、ちぎり絵など絵の作品を残している人の部屋の外の廊下に展示コーナーがあって、多くの作品が飾ってある。生け花もして玄関や廊下に潤いを与えてくれている。「今日、何かお花買ってきましょうか、一緒にいきますか?」と職員が誘いかけている。新聞に投稿し、賞を受けた俳句が自慢、当時の思い出を話してくれる表情は生き生きとしている。ホームに来て詠んだ一句……

～今日ありて 明日のわからぬ我が身なら 現在(いま) 只今大切に～ この人、そして利用者全員の気持が痛いほど分かり胸が詰まる。

一人ひとりの思いや気持を引き出し、自然にそれらを叶えてあげることを大切にして、ゆったりした雰囲気、利用者のペースで働いている利用者や職員の生活振りに接し、この利用者は幸せだと胸を撫で下ろした。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者とその家族が、このグループホームの日常の運営にどのように参加出来るかという仕組みやきっかけを法人全体としても考えて見る必要があるのではないかと思う。「お世話になっている」「大切にお願いしている」という他人儀儀の関係から、利用者-家族-職員が一つの家庭を形成する共存共栄の関係を一度見たいものである。

職員は比較的若い世代の人が多く、利用者にとっては孫のような存在で、これはこれで活気もあり、微笑みささを感じるので職員の熱意に好感した。明治、大正、昭和初期の思い出話をするのも利用者にとっては楽しい事で、その会話の進行役を務める近所の元気なお年寄りがいるといいなあとも思った。このようなボランティアの人も地域交流の一環として貴重かも知れない。

## I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	和香会という大きな医療法人の元で、医療と福祉が一体化になって地域の人々を人間としての尊厳を大切に、住み慣れた場所で生き生きと生活してもらいたいという地域や社会づくりを代表者筆頭に全職員が目指しているに違いない、利用者や職員が楽しく自立した生活をしていけるように室の高いサービスを提供している。グループホームとデイサービスが、福田公園に面した一画に設立され、地域交流村ふくだの里も地域交流の最先端として活動している。		

## 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	一つのユニットは幅広い廊下が長く続き、その廊下に沿って各部屋とリビングルームが配置されている洋風の長屋街の雰囲気をつくっている。もう一つのユニットはリビングルームを中心に厨房と各部屋が周辺に配置され、ウッドデッキに空間が広がる和風の大きな家を思わせる雰囲気を感じる。		
	その2つの異なった雰囲気の中で、利用者はそれぞれに自分達の生活のスタイルと場をつくり出してきたと感じさせる。昨年に比べると、2つの大きな家族が、その家にとっかかりと生活を根付かせたと思わせる利用者や職員の世帯を感じさせてくれた。		

## ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

## III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	自分の出来る事を發揮してグループホームの生活の場に役立つ事にやりがいを感じて、毎日の生活をしている共同生活の部分と、自分達の好きにしたいことを自分なりに時間を費やして、その人らしい生活を実践している様子が伺え、このグループホームの目指している認知症ケアの効用が定着していると感じた。利用者が自然に求める生き方、その時々々の気持や希望が、空気の流れのようにゆったりしたり、歓喜や感動の空気が揺れている時もある。風の流れを感じるの、強制されたものでなく、わざと作られたものでない、そこに人間から生まれた雰囲気を感じているのだと思った。職員が目立つでなく、利用者の意向に添って陰ながら寄り添い声かけをしており、人間と空間も一体感があり、落ち着いた生活することに、利用者や職員、内外の空間との間がすっかり調和してきたのだと思う。		

## IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	先日、法人全体の職員が参加して、和香学会が開催され、医療、福祉、リハビリやサービス、栄養と摂食、地域交流など日頃活動している全範囲から体験発表され、討論された。大変有意義な大会であったと聞く。		
	医療と福祉は人間のために存在し、地域や社会の人間が生きるための支援をしていくことは尊い理念、行動である。先に述べた「ふくだの里」は和香会として地域に密着した最前線と思うが、その機能が定着していくのはこれからだと思う。		
	「地域の高齢者と家族と法人の連帯が地域を動かす」「認知症の人とその家族とふくだの里の連帯が地域の中に根付く」という風が早く吹くことを期待している。		